

目的 人体が衣服を着用するにあたり、肩部の適合性は特に重要なポイントである。肩部を把握する上で、なで肩・いかり肩・前肩などの形状とともに、肩後部の形態に影響を与える肩甲骨の位置と大きさも把握することが必要である。また個人の利き腕側の形状が、生活などの影響をうけて発達していく過程に左右差が生まれるとされているので、今回は成人女子の乳頭位胸囲から上部の、肩・背・胸部形状をモアシ法により測定し、縞形状・横断面図・展開図などにより、種々の考察を行った。

方法 被験者は19才から22才の女子学生 197名の体型測定値より肩傾斜角度に注目し、 $M \pm 1 \sigma$  以内5名、 $M + 1 \sigma$  以上4名、 $M - 1 \sigma$  以下4名、の合計13名を無作為に抽出した。撮影に際しては回転台を用い、正面から45度おきに8方向と、左右の肩上部の合計10方向からとした。姿勢は静立位で両上肢下垂時・両上肢上挙時の2種に定め、得られた三次元データを入力し、解析を行った。

結果 1cmごとの水平断面重ね図より、なで肩・いかり肩・前肩などのそれぞれの特徴を把握することができた。接平面展開図を交角一定でえがかせることにより、肩部・背部・胸部形状の特徴と差異について把握でき、また左右差に関しても、利き腕側の発達した様子があらわれた。接平面展開図上の基準線をもとに、前・後・上肢と区分をおこない、各ピースを前後正中線を垂直に、乳頭位胸囲線を水平になる様に配置した結果、肩線は、肩傾斜角度だけではなく、背部・胸部の形状の影響を受けていることなどがわかった。